

## 時代とともに変化する「利根運河」

### ●舟運～治水・利水～環境・エコパークへ！

それでは「利根運河」について、江戸川河川事務所副所長の荒井様のお話と江戸川河川事務所のHPなどから抜粋させていただきます。

### ◆舟運事業としての利根運河

利根運河は、千葉県の流山市・柏市・野田市の3市に接し、利根川と江戸川を結ぶ全長 8.5km・海底幅 18m・平均水深 1.6m の運河です。

江戸末期、北海道や東北の生産物を大量に早く江戸へと届けるため、利根川と江戸川を使った舟運航路が利用されました。しかし利根川と江戸川が分かれる部分である江戸川流頭部(現・野田市関宿地区)には、利根川の洪水時に江戸川への流入量を制限する棒出しが設置されており、水面幅が狭く航行最大の難所でした。

利根運河は、その難所を避けるため、江戸川～利根川間を結ぶバイパスの水運ルートとして、明治23年(1890)に完成しました。運河の完成により、流頭部を通る航路よりも、距離にして約40キロ、時間にして3日から1日に短縮できるようになり、時間・費用が大きく軽減したことで、多くの船が運河を往来しました。鉄道の進出により舟運が衰退し、航路としての役目を終える昭和16年(1941)までの約50年間で、利根運河には約100万隻、年平均2万隻もの船が利用し栄えました。ただ、冬場の渇水や浅瀬の影響で運行できない時期もありました。



〔図は「ちば遺産 100選「利根運河」より引用〕

### ◆治水・利水としての利根運河利用

昭和16年(1941)に舟運としての役目を終えてからは、地域の治水と利水を目的として活用されてきましたが、平成12年(2000)に「北千葉導水路」の完成したことにより、60年間にわたる治水と利水の役目も終わることになりました。

### ◆環境面からの活用「利根運河エコパーク構想」

こうして治水や利水という面からの役目を終えた「利根運河」ですが、首都通勤圏に残された広大なみどりや多くの野生動植物を育む里山環境、水と緑豊かな自然環境、高い歴史的価値など利根運河の魅力を見直す動きが始まりました。



〔利根運河エコパーク実施計画より引用〕

### 計画の目標: エコロジカル・ネットワークの形成

#### 目標

良好な谷津環境を保全・再生する

※5つの環境タイプに分類し、生きものが生息できる環境を指標とする

- 《利根運河(水域)》  
カマツカ、カラスガイ等の二枚貝、  
ジュズカケハゼ、アカヒレタビラ
- 《利根運河(陸域)》  
ギンイチモンジセリ、ジャノメチヨウ
- 《連続性のある河川・水路、湿地》  
ナマズ、メダカ、ドジョウ
- 《良好な湿性林》  
ミドリシジミ、コムラサキ
- 《良好な樹林地》  
オオタカ、フクロウ



※谷津環境全体の指標種  
サンバ、ニホンアカガエル、ヘイケボタル

### 計画の目標: 利根運河に係わる良好な景観の形成

#### 目標

自然・歴史・人の営みが調和した美しい景観を保全・創出する



上記のような取り組みを、ハード面での整備は国と地方自治体が主体隣、ソフト面の活動は大学や民間が市民を巻き込みながら取り組んでいます。魅力発信のためのマップ作成、エコツーリズム企画による新たな魅力創出、景観整備とパンフレット作成などにも取り組んでいます。

線から面へまだまだ広がるエコパークの活動！